

組織拡大・労働条件改善、平和の闘いに全力

＝第30回東日本本部定期大会/ラフレ・さいたま＝

国労東日本本部「第30回定期大会」が8月21・22日の2日間にわたり、さいたま市・ラフレさいたまにて開催された。地方本部からは6人の代議員と佐々木力執行委員長並びに沢田光広書記長、傍聴として佐々木研司盛岡支部執行委員長が参加した。

経過では小泉正直代議員が青森車両センターの派出に伴う青森運輸分会の取り組みなどについて発言。また、方針討論では菊池要悦代議員が組織拡大に向けた分会活動の活性化と組織対策費に代わる財政支援制度の確立などについて発言した。

大会は台風9号の影響を考慮して2日目は昼食休憩を取ることなく進められ、組織拡大をはじめとした当面する運動方針を確立し、予定時刻より早めに終了することとなった。

職場環境・組織拡大など 盛岡の代議員2人が発言

大会は13時30分、宮崎副委員長の開会挨拶で始まり、大会構成員の出席を確認し大会成立宣言をしました。議長に出羽代議員(水戸) 副議長に公家代議員(東京) を選出し、議長が進められました。菊池委員長の挨拶では「平和・民主主義を守り、労働法制改善反対の闘い。震災と福島第一原発事故からの復旧状況と脱原発・原発再稼働反対の闘い。組織強化拡大の取り組み。安全安定輸送確立、労働条件の改善」の4点について述べ

られました。続いて坂口本部長、委員長の挨拶で、祝辞、海渡弁護士、福田弁護士から東日本本部弁護団の報告を受けました。

議題に入り2015年度決算報告に続き同年度経過報告、2016年度運動方針(案)、同年度予算(案)が提起されました。経過報告の質疑には青森支部の小泉代議員が、北海道新幹線開業により青森車両センターの状況が大きく変わる中、奮闘している青森運輸分会の報告と技術継承、組



職場の実態、取り組みを発言する小泉代議員(青森運輸分会)



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
 発行者 佐々木 力
 編集者 及川 孝
 TEL 019-622-5021
 メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp

2016.9.10
 第1497号

拡大キャッチコピー
 「新しい仲間づくりを 皆の力で」
 「一緒に解消しませんか、 あなたの疑問。 加入ってます」

当面の主な日程

- 9月17日(盛岡) 第2回佐高信文化塾
- 9月20日(盛岡) 第13回地方本部執行委員会
- 9月20日(盛岡) 第2回地方本部組織検討委

委員会

- 9月24日(盛岡) 第5回地方本部ボウリング大会
- 10月8日(盛岡) 第72回地方本部定期大会
- 10月8日(盛岡) 国労会館盛岡地区労働講座

技術継承と人材育成 急速な世代交代で意見

地方本部主催「主務職交流会」が8月27日、盛岡国労会館で開催され主務職の組合員・機関代表ら13人が参加、職務内容や職場状況の報告をしながら悩みを共有し合ひ、組織拡大へ結び付けるための取り組みを全体で確認した。

菊池組織部長が開会挨拶を行い、佐々木委員長が「9月には国会が開催されるが、平和と憲法を守り、脱原発・労働法制改善を許さない運動をつくらなければならない。昨年、東日本本部内で28人の組織拡大があり、盛岡でも青年が国労に加入した。彼を独りにさせず、正常な労働関係を築き、若い仲間への加入に向けた運動をお願いしたい」と挨拶し、沢田書記長が交流会の内容を提起し、全体で自己紹介を含め交流を行った。

参加者からは、「青年は「国労」に加入して良かった」と話している。自信を持って運動していこうと職場主催の「飲み会」には国労も積極的に参加したほうが良いと技術継承や人材育成には程遠い。研修や報告などに追われ自らの仕事が出来ていない等の報告があり、会議に参加できなかった仲間からはメッセージが届けられ、出向先の職場実態や業務の実態、エルダー制度の問題点など地方本部への要望もだされた。急速な世代交代に対し「技術継承と人材育成」に国労の助役や主務職が必要であり、揺るぎない信頼と実績の中で多くの仲間を増やしていこう。



「主務職交流会」で挨拶する佐々木委員長

第72回定期地方大会 代議員36人が決定

10月8日盛岡で大会開催

第72回定期地方大会が10月8日に盛岡市のリリオで開催される。

各分会選出の代議員38人が別記の通り選出された。なお、大会には特別代議員として支部・地区協議会・職能別協議会の各1人も参加する予定となっている。

- 盛岡支部 23人
 - 盛岡駅連合分会
 - 松島 善文(盛岡駅)
 - 近藤 信博(TSS矢巾駅)
 - 工藤 剛(TSS閉合七)
 - 盛岡運輸分会
 - 伊藤 淳(盛岡運輸区)
 - 盛岡施設分会
 - 久保 孝夫(盛岡土木技七)
 - 大西 信行(盛岡建築技七)
- 八重樫陸志(盛岡機械技七)
 - 盛岡運輸分会
 - 畠山 信吾(盛岡車両七)
 - 盛岡電気分会
 - 八重樫俊昭(盛岡信通技七)
 - 盛岡貨物分会
 - 工藤 道弥(盛岡総合鉄道)
 - 一戸地域分会
 - 上村 義光(仙建・一戸)
 - 花輪線地域分会
 - 工藤 則彦(盛岡技七花派)
 - 北土上駅連合分会
 - 竹内 俊博(北土上駅)
 - 佐藤 弘昭(TSS水沢駅)
 - 北土上工務分会
 - 畠山 孝(北土上保技七)
 - 高橋 務(北土上幹保技七)
 - 一関運輸分会
- 菊池清二郎(一ノ関駅)
 - 一関工務分会
 - 千葉 明告(一関保技七)
 - 気仙沼地域分会
 - 熊谷 泰幸(盛岡)
 - 釜石地域分会
 - 桜井 繁(北保技七釜派)
 - 宮古地域分会
 - 留場 義継(川内駅)
 - 青森支部 15人
 - 青森駅連合分会
 - 滝浪 昇(青森駅)
 - 小原 典昭(青森駅)
 - 青森運輸分会
 - 柴田 幸男(青森運輸区)
 - 青森施設分会
 - 横濱 幸徳(青森保技七)
 - 今田 定幸(盛岡土木技七)
 - 青森運輸分会
 - 相内 光幸(盛岡車七青派)
 - 中嶋 宏(盛岡車七青派)
 - 青森電気分会
 - 米田 則夫(盛岡信七青メ)
 - 青森貨物分会
 - 兼平 勉(青森総合鉄道)
 - 野辺地三沢地域分会
 - 野坂 信広(仙建・野辺地)
 - 大湊地域分会
 - 岩崎 毅(大湊駅)
 - 八戸運輸分会
 - 石田 義明(八戸駅)
 - 八戸工務分会
 - 八戸貨物分会
 - 松橋 隆(東洋機械)
 - 北上 常義(八戸幹保技七)
 - 八戸貨物分会
 - 加藤 寿(東北ロジ八戸)

◆機関紙「コンクール」応募作品募集◆

各級機関発行の機関誌
 (昨年7月～本年8月までに発行)
 2016年9月26日(月)

◎応募締切
 ◎審査 地方本部教宣部
 ◎表彰 第72回定期地方大会で表彰予定
 (最優秀賞・優秀賞他)

ブラジルで開催された、平和の祭典、リオオリンピックが終わった。スポーツ競技を通じて、「勇気と感動・感激」を垣間見ることが出来た。メディアも取材を重ね現地や選手らの情報を視聴者へ届けていた。色々、問題が山積だったオリンピックは閉会した。その日本では、第24回参議院選挙で野党統一候補の躍進があったものの、改憲勢力に3分の2以上の議席を奪われてしまった。「憲法9条」を変え「戦争」する国になろうとしている。数々の力で無理やり改憲しようとする。私たちが、この間「戦争はダメ」だと訴え続けてきた。71年前の戦争による悲惨さを体験してきた年配の方々は「どんなことがあっても、再び戦争をしてはいけない」と語り続けている。一方で戦争を体験し語れる世代は高齢化している。私たちは戦争体験を直接聞くことは出来なくなり記録からしか学べなくなる。安倍首相は昨年、戦後70年談話で「過去を受け継ぎ、未来へ引き渡す責任」を明言した。であればこそ、戦争の記憶や記録を財産として未来へ伝承する努力が政府として必要だ。「日本は過ちを繰り返さない」と世界への強い態度を表明して欲しい。そのためにも私たち労働者は、「戦争に反対する多くの仲間と「戦争」しない「原発」いらぬ、経済・賃金格差を無くし平和で安心して生活出来る世の中を目指し、「戦争法」撤廃するまで闘い抜かなければならぬ。世界では幾多の戦争が繰り返された。戦禍は過去のものではなく、現在も多くの悲劇を生み続けている現実を忘れてはいけない(秋)

広島大会 見た広島、貴重な話し・声 広島について伝えたい

家族(一関) 小野寺千代子

8月3日夕方、広島市の宿泊ホテルに入り、宮古市職労の佐々木博幸さんを団長に小学生1・中学生3・高校生1人を含む21人の岩手県代表団として夫(勝則)と大会へ参加しました。

4日9時から「被爆体験を聞く」桑本勝子さんの語り。桑本さんは、昭和14年生まれの77歳で6歳の時に被爆されました。被爆の現状とその後の辛い日々をお話するとともに、最後に「今年の5月に、アメリカのオバマ大統領が広島に来ましたが、自分

の立場のためのパフォーマンスに過ぎない。1人ひとり苦しくて死んでいったのを、分かってほしい。被爆者にとって、オバマ大統領が来たからといって、なにも変わらな

ない。広島若い人たちでも、昭和20年8月6日についてわからない人もいます。被爆者はどんどん高齢化が進み、亡くなっている。体験したことを話すがいなくなっているのです。今こうして、話を聞いたり見たりして伝えてい

ほしい。知らせる努力をしてほしい。私も健康が許す限り、どこへでも出向いて皆さんに伝えていきたい」と話されました。

その後、広島原爆病院へのお見舞い、原爆資料館を見学、折り鶴平和行進に参加し17時15分から、被爆71周年原水爆禁止世界大会広島大会開会総会に参加しました。第19代高校生平和大使3人のスピーチと福島からの報告等々、感銘するとともに、広島や皆さん

の訴え、原水爆禁止運動を後世に伝えなければと改めて感じました。

5日は、第7分科会の「見て・聞いて・学ぼうヒロシマ」に参加し、「君たちはゲンバクを見たか」の上映や被爆者の方の話を聞き「核と人類は共存できない」ことを学び合いました。

6日最終日は、皆さんと共にお預かりした千羽鶴を平和公園の慰霊碑に捧げ、8時15分に黙祷し、ひろしま平和の

歌を聴きながら各自広島をあとにしました。

平和公園に向かう4日、路面電車の中で90歳前後の婦人に声をかけられ、どこから来たのか聞かれました。すると、「遠いところ、よく来て下さりありがとうございます」と感謝の言葉を頂きました。「私は当時、1・5Km内について、助かった人間です。被爆を経験しているの、初めは私も語り部をしていましたが、話をしているとき、当時の事を思い出

してしまい、体が震え、止まらなくなり、語る事ができなくなりました。今はその地元に帰りました。この広島、戦争や原子爆弾等について伝えてほしい」と涙を流しながら話してくれました。思いがけない所で、貴重なお話を聞くことが出来ました。涙して訴える姿に、心打たれるものがありました。私も、広島について伝えていかなければと思っています。

被爆71周年 原水爆禁止世界大会

<7/30・8/4~8/9>

未だに9万人の方が避難生活をされている福島でデモ行進し核廃絶と脱原発を訴えた



平和公園の慰霊碑に祈りを捧げ、折り鶴を献納後に集合写真/広島・岩手県代表団



ノーモア 広島・長崎・福島



第19代高校生平和大使が多くの県から参加し平和へのスピーチを発した/長崎



長崎会場の前で集合写真を撮る青森代表団の7人

福島大会 いまだ9万人余が避難生活 風化させない闘いを仲間と

地方本部執行委員 及川 孝

「核も戦争もない平和な21世紀に!」くり返す原水爆禁止世界大会。福島大会が7月30日に開催され、会場となった福島市の福島県教育会館には全国各地から750人が参加しました。岩手県代表団は、平和環境岩手県センターの仲間20人、国

際からも5人が参加しました。東日本大震災や原発事故で亡くなった方々のご冥福を祈り参加者全員で黙とうをささげ

た後、主催者を代表して川野浩一実行委員長が「先の参議院選挙で改憲勢力が3分の2を超えた。今後も、核廃絶・脱原発と平和憲法を守る闘いを推し進めよう」と挨拶がありました。

ドイツ連邦議会副議長クラウディア・ロートさんが、「全世界には441基の原発がある。その1つでも事故が起れば壊滅的なリスクを負う。先進国は脱原発に向け務めていかなければならない」とドイツの脱原発政策について、「再生可能エネルギーの転換は36%を占め、今後さらに増えいく。また、再生可能エネルギーは雇用の創出も生んでいる。原発のないグリーンなエネルギーを次の世代へ引き継いでいくことが大事」と訴えました。

参加者からは、「原発事故から5年5か月が過ぎ、記憶が薄れてきていることに反省する」「被災者は今もお苦しんでいる。福島の人たちに寄り添った活動をしていきたい」「原発事故を再認識した。次の世代に伝えていくことが大事」などの感想が述べられました。

平和環境岩手県センターの佐々木力議長代行が、「プルトリウムは核燃サイクルが破たんしての脅威にもなっている。さらに、低レベル廃棄物さえも処分できない状況である。再生可能エネルギーで平和な社会を築くドイツの政策を日本も見習いたい。セン

ターとしても運動を継続していく」とまとめの挨拶がありました。

一向に収束の目途が立たない原発事故により、未だに9万人を超える人々が避難生活を余儀なくされています。政府は、この異常な事実を無視し原発事故を風化させ、まるで事故は無かったことに振る舞い、原発の輸出や再稼働を押し進めています。原発により大企業のみが儲かるシステムを断ち切り、再生可能エネルギー政策への転換に向けて、今後も共闘の仲間と共に声を上げ、職場に持ち帰り発信していきたいと思

8日の分科会は、「平和と核軍縮2・プルトリウム再処理と核拡散」に参加し、米・サバンナリバー施設監視団体のトムクレメツツ氏から米国における再処理問題について提起を受けました。その中で、使用済み燃料再処理計画は、経

済性も合理性もなく、核拡散防止の観点からすべての国がプルトリウム再処理の事実から撤退の動きが出ているとの報告がありました。現在日本では、核兵器6,000発分に相当する約48トンものプルトリウムを保有しながら年間8トンの分離能力を持つ六ヶ所村再処理工場で、さらにプルトリウムを取り出そうとしています。六ヶ所村再処理工場は長い間稼働していません。日本の政策と米国の政策の対立関係が明らかになっています。田窪雅文氏からは「核のない世界」の実現に向け日本ができること、すべきことについて考

えることができる素材として、「ウェブサイト核情報」で取り上げてきた最近の日本の核政策・核燃料政策を巡る状況の報告がされました。

9日は、例年指定されている慰霊碑墓参で献花し、帰路に着きました。

長崎大会 高校生平和大使の声に感動 若い力で運動の拡大が必要

鉄道退職者の会(青森) 宮崎 孝

8月7日(9日までの被爆71周年原水爆禁止世界大会・長崎大会に青森県代表団7人の1人として参加しました。

7日長崎ブリックホテルで大会総会が開催され、川野浩一大会実行委員長挨拶、藤本大会事務局長から大会の基調提起案が行われました。来賓を代表して田上長崎市長から核も戦争もない平和な世界の実現を目指す活動の報告がされました。開会総会で第19代高校生平和大使の皆さんの発言を聞き感動を受け、今後の原水爆禁止運動の中心に若い人たちの力で運動を広めることが必要だと感じました。

8日の分科会は、「平和と核軍縮2・プルトリウム再処理と核拡散」に参加し、米・サバンナリバー施設監視団体のトムクレメツツ氏から米国における再処理問題について提起を受けました。その中で、使用済み燃料再処理計画は、経

済性も合理性もなく、核拡散防止の観点からすべての国がプルトリウム再処理の事実から撤退の動きが出ているとの報告がありました。現在日本では、核兵器6,000発分に相当する約48トンものプルトリウムを保有しながら年間8トンの分離能力を持つ六ヶ所村再処理工場で、さらにプルトリウムを取り出そうとしています。六ヶ所村再処理工場は長い間稼働していません。日本の政策と米国の政策の対立関係が明らかになっています。田窪雅文氏からは「核のない世界」の実現に向け日本ができること、すべきことについて考

生活・法律相談窓口のご案内

相談日：2016年 7月14日(木) / 9月8日(木) / 11月16日(水)
2017年 1月12日(木) / 3月9日(木) / 5月11日(木)

相談時間：すべての相談日とも13時から15時まで

相談受付電話：019-622-5021 国鉄労働組合盛岡地方本部

相談場所：盛岡市内丸6-15 EST21ビル もりおか法律事務所

弁護士：佐々木 良博

※ 相談者氏名、相談内容等については、外部には一切公表致しません。(秘密厳守)

一般財団法人 国鉄労働会館 盛岡地方部

生活・法律相談 専門の弁護士が直接相談に応じます。

労働問題からサラ金問題、財産相続問題など、何にでもご相談ください。

無料相談